



目次

巻頭言	1
愛知県退職校長会研修会報告	1
全国連合退職校長会理事会報告	1
東海北陸地区連絡協議会報告	2
地区退職校長会だより	2
生き生きライフ	2・3・4
学校支援・社会貢献活動紹介コーナー	4
題字	伊藤勝朗(元 名古屋・有松小) 2年度入会
タイトル	市川裕一(元 名古屋・城山中)
デザイン	元年度入会

中正健全な
教育世論の喚起を

副会長 野木森 広

二〇二三年九月、世界最大規模の世論調査会社イソプスが公表した「教育に関する意識調査2023」によれば、若者に「教員になること」を勧めたい日本人は十九%で、世界二十九か国中二番目に低く、各国の平均値である四十三%を大きく下回っています。これは、「あなたの国では大半の教員に十分な給与が支払われている」に「そう思う」と回答した日本人が三十一%で四番目に低いことが一因であると思われる。しかし、さらに憂慮すべきは、「あなたの国の教育システムが直面している最大の課題は何か」に対して「教員教育が不十分」という回答が四十%で二十九か国中二番目に高く、かつ、「あなたの国では大半の教員が仕事に熱心に取り組んでいる」に対する肯定的回答は四

十七%で二番目に低いことです。つまり、教員を勧めたくない理由には、給与面のみならず、教員への不信感があることが窺えます。

一方で、学校に子どもを通して親は、学校に通う子どもがいらない人に比べ、一貫して自国の教育システムに肯定的です。つまり、学校のことを知らない人たちが学校や教員に対して批判的なのです。このような教員に対するネガティブイメージは、教員のなり手不足が深刻化している今、大きな課題です。では、どのようにしてこの風評を払拭できるでしょうか。

それは、我々のように長く教職を務め教育現場の苦勞を知る者が、現場に代わってその並々な努力を発信することです。教育界に不利な報道が流れたとしても我々にはその背後に隠された現場の事情が想像できます。教育に対する不満や噂話を耳にしたとき、その背景や現場の頑張りを周囲に解説するのです。

退職校長会の目的は、「中正健全な教育世論の喚起に努めること」です。それは、とりもなおさず、我々一人一人が、現場に寄り添う肯定的な情報発信に努めることです。

愛知県退職校長会
研修会 報告

八月一日、

愛知県教育委員会義務教育課長水谷政名様を講師にお招きし、研修会を開催しました。



会の冒頭で、坂野重法会長から、便利な時代になっても、教育の目的は人格形成であり、今日の課題を現職者と退職者が一緒に勉強していく必要がある、という挨拶がありました。

水谷様のご講演「義務教育の今日的課題」では、生徒指導や相談活動、学力向上についての話を中心に、校内教育支援センター整備推進事業、SNS相談事業などの今年度から始めた取り組みや、中高一貫校や夜間中学の導入など、多岐に渡って、端的にその内容をお示しくださいました。また、それらの問題点と今後の対応についても具体的に説明していただきました。

講演会後、愛知県立小中学校長会長都築孝明様と名古屋市長立小中学校長会長鈴木健様から、教育現場の実態と課題について、具体的なお話をいただきました。

全国連合退職校長会
第二回理事会報告

会長 坂野 重法

十月四日、東京都品川区立総合区民会館「きゅりあん」にて、本年度二回目の理事会が開催された。

午前中は、経過報告において、文部科学・厚生労働・総務大臣への要望書が提出されたことや、全国校園長会との連携を深めたことなど全連退の活動について報告された。また、文科省初等中等局との教育懇談会の資料をもとに、当面する諸課題について説明がされた。

午後は、五グループに分かれての「情報交換・課題」に対する協議が行われた。全国的には会員の減少が進む中、定年引上げや役職定年などの制度変更に伴う入会勧誘の在り方について話し合われた。多くの県が、愛知県と同様に役職定年時に入会を勧誘する。組織の活性化を図るためには、退職校長会の目的や事業内容を明確にすることや現職校長会との連携や情報発信が重要であることを確認した。

全国連合退職校長会 東海北陸地区連絡協議会 石川 大会報告

副会長 久保田 力

東海北陸地区連絡協議会が十一月九日金沢市で開催された。坂野重法会長、岡田豊副会長、浅野哲司事務局長と共に参加した。

議事では、「定年延長に伴う加入勧誘の時期及び加入促進方策」「コロナ禍における本会目的（会員相互の親睦・教育振興に寄与）の遂行のための具体的活動」の二つの協議議題が示され、各県の成果と課題について、熱心に話し合いがなされた。

本県からは、原則として満六十歳の翌年度を入会とする会則の改正、定年延長に伴う会員の現状についてのアンケートの実施、現職校長会との研修、会報を通じた各会員の様々な学校支援や地域貢献の活動紹介等を報告した。

どの県からも、定年延長に伴う課題では、加入の時期や方策等について活発な報告がなされた。また、会の最後には、本協議会の今後の開催方法等についての話題も出され、より魅力ある退職校長会の在り方について確認された。



地区退職校長会だより

県内の地区退職校長会から、たよりをいただきました。互いの理解と親睦を深めるため、順次紹介しています。

春日井市 退職校長会

本会は、春日井市の小中学校校長退職者および春日井市在住の県内小中学校校長退職者の希望者で組織され、現在の会員数は二百四十五名となっています。活動目的は親睦・連絡・情報交換です。主な活動としては、会員同士の懇親会や会員の米寿、喜寿の祝賀事業などを行っています。しかし、この三年間は、コロナ禍のため対面での活動を中止せざるを得ず、書面での対応となっていました。また、弔事に際しての弔問、三年に一度の会員名簿の作成とその配付も行っています。

今年度は、四年ぶりに対面形式での総会・懇親会を行うことができました。例年であれば五月に開催するものですが、新型コロナウイルス感染症の位置づけが五月八日から「五類感染症」に移行されたことを踏まえ、七月一日の土曜日に新会員十一名を迎えて

行いました。総会では、故人に黙祷を捧げた後、活動報告や役員の選出等を行いました。議事終了後、今年度米寿や喜寿を迎えられた方々をお祝いしました。続いて、市長、教育長を来賓としてお招きし、懇親会を行いました。四年ぶりの再会の喜びを噛み締めつつ、終始和やかな雰囲気との会となりました。かつて職場を同じくし、指導をいただいた方々から当時の話を改めてお聞きすると、その当時は気づかなかつた新しい発見を様々得ることができたとともに自分自身の当時の未熟さを痛感する時間でもありました。なぜか少し恥ずかしい気持ちにもなりましたが、この懇親会の意義を改めて認識することができました。

来年度以降も、これまでのように年に一度の会が確実に開催され、日頃会う機会が少なくなつた方々と一堂に会して語り合う会を楽しみにしたいと思います。

（5年度入会 山田勝史）

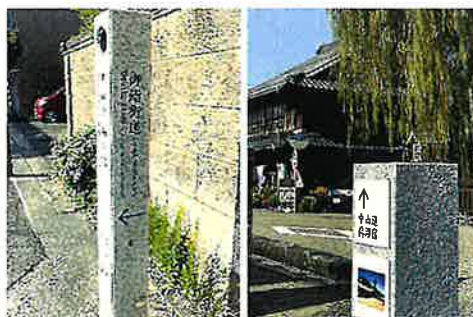
生き生きライフ

はじめの一万歩

30年度入会 一木 直久
（元 西春日井・豊山中）

退職してから足腰を鍛えようと一日一万歩を目標にウォーキングを始めた。実際に歩き始めるとすぐに足首を痛め、次に膝を痛め、慣れるまでに一年もかかってしまった。ただ歩くだけでは続かないと思い、①美味しいランチの店があること②トイレ休憩ができることの二点をチェックしてコースを考えている。

TVで街道を歩いて美味いものを食べる番組を見たこともあり、それならと近くの中山道の鵜沼宿へ加納宿に挑戦してみた。鉄道に沿っているのでトイレや食事も途中で止めることも大丈夫。十七キロ程を二日で歩いた。続きは？と考えていると、加納宿で「御鮭街道」の標識を見つけ、調べると美濃路を通って名古屋へ、これも鉄道に沿っている。その続きは！同様に名古屋から岩倉街道と柳街道を通って鵜沼へ行くことができた。



御鮭街道の標識（左）と鵜沼宿（右）

生まれ故郷や勤務していた地域、疲れを癒すスーパーストアや美味しいお店、そして、城や歴史の息づく場所など懐かしい所や興味関心が湧く所、そして新たな発見も実に多い。今ではこれらに関わる趣味も増え、毎日が楽しく充実した日々になっている。

コリウス

元年度入会 鈴木 篤
（元 名古屋・村雲小）

普段、全く気にも留めないホームセンターの園芸コーナー。その日も、通り過ぎるつもりでしたが、何かが違っていました。高さ15cm程の植物に目が留まりました。えんじ色の葉に薄緑色の縁取りの観葉植物。プレートには「コリ

ウス」と書かれていました。でも、元々園芸に興味のなかった私は、それっきり忘れていました。

数日後再び園芸コーナーを通りがかり「そういえば…」と見に行きました。相変わらずの姿を見ている内に何ともかわいく思えて、つい一株買って帰宅しました。

日に日に大きくなる姿に「こんな小さな葉が出た」とニヤニヤする自分がいました。



元気に育って

どうした?

ある夏の夕方、帰宅してみると…元気なはずのコリウスが力なくぐったりしているではありませんか。水を置くのも忘れ、大慌てで水をあげ、「頼むから頑張つて」と祈りました。三十分程して見に行くと…なんと、思いきり葉を

広げたコリウスがいました。その時の安堵感たるや…。

コリウスは私の新たな一面を教えてくれました。まだまだ私の知らない私がいるようです。探していこうと思います。

『熱い思い』ふたたび

2年度入会 太田 一郎
(元 名古屋・牧野小)

「8050問題」という言葉に、最近、より過敏になった自分に気付く。この四年間、不登校の児童生徒の学校復帰や社会的自立を支援する家庭訪問活動に携わってきた。

名古屋市教育局センターの一室。元管理職だった男女十一名が、毎日それぞれの担当する家庭を訪れる。うまくすればその子どもと共に一時間ほどを過ごすことができる。昨年度の活用児童生徒数は五十五名。何年も掛かる例も多いが、学校復帰率は五割近い。毎日、前日までのすべての訪問の様子を聞き取る。子どもや保護者の表情、玄関先の匂いや部屋の温度までが伝わってくる。リアルな空間が目の前に広がる。と、同時に、沸き立ってくる学級担任だったころの『熱い思い』。それを、

深呼吸することによって鎮めて行く。

事例検討会や心理士によるスーパバイズの時間を確保すると、予定表も密になる。

今朝の新聞、一面の見出しは、「子の居場所 初指針」。

学校・教室以外の選択肢も、と言われてしばらく経つ。

実践的な社会性や学力を効率的に身に付けて行くための場としては、「学校」が最善であることには何も変わらないのだけれど。

現役の校長先生方のご苦勞に、ほんの少しだけ寄り添うことしかできないけれど。

知らないうちに

3年度入会 植松浩二郎
(元 小牧・小牧西中)

五十代半ばになって始めた御朱印集め。はつきりした記憶はないが、信仰心からではなく「旅行先の日時と場所が後から確認できればいいや」ぐらいの不遜な気持ちからだっただと思う。趣味というほどではないが、それまでも日帰りや一泊ぐらいでぶらっと出かけることはあった。近くや道中に有名な寺院があれば、それこそミッハー感覚で訪れることもあったが、寺院その



今では宝物

ものが目的地というわけではなかった。

それでも、有名な寺院に何度か訪れるうちに心に何かを感じられるようになった。とても言葉では言い表せないが、佛像・山門・本堂・庭園・鐘楼といった姿形のあるものももちろん、威厳・静寂・歴史・雰囲気などに触れ、およそ今まで感じたことのない落ち着いた自分がいることに驚いた。

コロナで遠出が難しくなった時は、近くの比較的混雑していない寺院にも足を運ぶようになった。御朱印帳がご朱印で埋まっていくのは楽しいものだ。それぞれの文字に力強さや繊細さ、時には安らぎを感じ、訪れた時の感動が鮮明に蘇ってくる。そう言えば、最近のお出かけは寺院に必ず訪れるし、時には目的地にもなっている。

どうして始めようと思ったの?

4年度入会 荻須 文裕
(元 岡崎・葵中)

私の趣味を紹介すると、まず間違いなく、表題のような質問を受けます。

私が五十歳で始めたのは、生け花です。当初、師事した先生に

「少し生けられるようになればいいですから」と、遠慮がちに話した覚えがあります。それがいつしか、十余年続く趣味となりました。

また定年を機に、家元の主催する京都中央研修学院―土日コースへ通うことになりました。師匠に勧められて決心したことです。が、まさか京都まで花を習いに行くことになるのは、思いもませんでした。

私のクラスは三十八名です。多くは女性ですが、庭師さんや大学生の男性も居て、講義と実習で二日間みっちりです。遠くは九州や沖縄から参加されています。志が高く熱心な



生花新風体 花展作品

方々ばかりで、私もおのずと真剣になります。また、ドキドキしながら作品の手直しを受けるのは新鮮です。

どうしてあのとき、華道の門を叩いたのか。実は明確な答えを私はもっていません。『〇道』への憧れがあったのかもしれない。でも武道という柄ではないので…かな？

ビワイチ・アワイチ

5年度入会 牧野 暢二
(元 新城・千郷中)

十年前にサイクリングを始めました。初めての長距離は浜名湖一周(通称ハマイチ)です。約七十キロ、自分としては達成感ある一日がかりの旅でした。その後、同じ趣味の仲間と出会い、三河各地を走りまわりました。仲間との会話の中で、琵琶湖一周はビワイチ、淡路島一周はアワイチと呼ばれ、一度は走ってみたいコースだと知りました。しかし、いずれも一周一五〇キロほどあり、私には一大決心が必要なコースです。そんな時、電動アシストロードバイクが発売になりました。坂道を平地＋少々の力で走れる。乗ってみますとハマイチを四時間で走れました。これならビワイ

チもいける。

退職して二か月後、仲間とともに一泊二日のビワイチに出かけました。景色もよく満ちたサイクリングでした。これで気をよくしましたので、アワイチにも出かけました。アップダウンの激しいコースでしたが、走り切ることができました。次はフジイチ(富士山一周)を目指しています。



ビワイチ(3年度入会の夏目さんと)

最終受益者は子どもたち



(公財)日教弘愛知支部
(株)愛知教弘

学校支援・社会貢献活動紹介コーナー

サッカーで恩返しを

2年度入会 小野 清隆
(元 豊川・八南小)

中学、高校、大学、社会人、そしてシニアとサッカーを続けてきた。教員になり部活動指導と並行しながら、長年サッカー協会の子どもの育成に関わってきた。

地元豊川市のサッカー少年団やクラブチームの高校生を対象とした「豊川選抜」を立ち上げ、一九九五年から選手の強化と普及を目的としての活動が始まった。時代とともに名称も「豊川トレセン」「豊川トレニングアカデミー」と変わり、現在は小学五・六年生約八十名を選抜し、トレーニングや練習試合、大会参加等を行い二十九年度目となった。選手たちは選ばれたメンバーとして、レベルの高い環境の中、トレーニングや試合を経験することで個々のレベルアップを図るとともに、スポーツを通しての人間性を高めてほしいと願っている。指導するスタッフも教え子やかつての選手達が指導する側となってくれており、最近の私は活動をサポートする側である。多くの方々の理解や協力、

支援があつてこそ、ここまですることができ感謝に尽きる。

愛知県の中でも、豊川市はまだまだサッカー途上の地域でもある。本市からもJリーガーや日本代表選手が出てきて喜ばしいことである。ただ、それはほんの一部であり、大事なのは多くの子ども達に「生涯サッカー」「生涯スポーツ」としていか定着させていけるかが肝心だと考えている。大人になってもサッカーを続けたり、教えたり、次の世代につなげたりすること、サッカーファミリーを広げたい。

私はサッカーを通して多くの人達と出会い、学び、喜び合い、育ててもらった。そんなサッカーでぜひ地域に恩返ししたいという思いで、これからも体が動く限り取り組んでいきたい。



グラウンドにて

事務局だより

ご多用の中を、原稿の執筆にご協力いただきました多くの皆様に心より感謝申し上げます。今後とも、皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

偶数号では、「会員交流広場」で、会員の皆様の作品(絵画・書・写真・短歌・俳句等)を紹介しています。会報四十八号では、定年引上げ・役職定年制について取り上げたため、「会員交流広場」をお休みしましたが、次号では、皆様の作品を紹介する予定です。是非、事務局までお寄せください。

訃報(一)内は逝去された日

大地 雄二先生(五・八・二)

元豊田市立加納小学校校長

令和五年七月一日から、

令和五年十二月三十一日まで

にご逝去され、事務局にご連絡をいただいた、七年会員の方を掲載しました。

愛知県退職校長会事務局

名古屋市中区新栄一丁目

四九番一〇号

愛知県教育会館六階

愛知県小中学校長会事務局内

TEL 〇五二二六二一八五二

FAX 〇五二二六二一八〇七

E-mail: ai-kocho@axel.ocn.ne.jp